



麦畑の 雑草防除に

生育期に
使えます。

たまねぎ、にんにくの
生育期にも!

アクチノール®
乳剤

- 一年生広葉雑草で優れた除草効果を示します。
- 土壌残留性がないので、後作物への影響がありません。



ナズナ



ハコベ



ヤエムグラ



カラスノエンドウ

●効果は遅効的です。●イネ科雑草およびコシキソウには効果がありません。

麦畑の雑草防除に

アクチノール[®] 乳剤

農林水産省登録 第8089号
有効成分：アイオキシニル……30.0%
毒性：普通物（毒物・劇物に該当しないものを指すという通称）
危険物：第4類第2石油類
火気厳禁 キシレン

適用雑草と使用方法

2017年8月現在の登録内容

作物名 〔 〕は適用場所	適用雑草名	使用時期	10アール当たり使用量		使用回数*	使用方法	適用地帯
			薬量(mL)	希釈水量(L)			
麦類	畑地 一年生 広葉雑草	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100~200	70~100	2回	雑草茎葉散布	—
たまねぎ (秋播移植栽培)		早春期 ただし収穫30日前まで (雑草生育初期)					
たまねぎ (春播移植栽培)		生育期 ただし収穫30日前まで (雑草生育初期)					
たまねぎ (直播栽培)		生育期(たまねぎ1葉期以降)~ 倒伏始期まで(雑草1~2葉期まで) ただし収穫30日前まで					
にんにく		生育期 ただし収穫30日前まで (雑草生育初期)	100		3回	全面散布	—
樹木等 (公園、庭園、提とう、駐車場、 道路、運動場、宅地、のり面等)	一年生 広葉雑草	雑草生育初期	200~400	150~200		植栽地を除く 樹木等の周辺地に 雑草茎葉散布	—

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびアイオキシニルを含む農業の総使用回数の制限を示します。

麦類での 上手な使い方 (10アール当たり)



100
〜
200mL



70
〜
100L



※大麦には10アール当たり150mL
前後で使用してください。

は使用しない。

- 加圧式噴霧器で均一に、雑草の茎葉によく付着するように散布してください。
 - 麦に対して、軽微な葉枯れがあらわれることがありますが、その後の生育には影響はありません。
 - 一年生広葉雑草の発生揃い~6葉期までに使用してください。
- (ただし、ヤエムグラは2~4節期まで、タネツケバナ、カラスノエンドウは2~3葉期までに使用してください。)

使用上の注意



- 広葉の雑草発生揃~6葉期に有効なので、時期を失しないように散布して下さい。ただし、ヤエムグラは4節期まで、タネツケバナは2~3葉期までに使用して下さい。
- イネ科雑草、コニシキソウには効果が劣りますので、これらの優占圃での使用を避けて下さい。
- 農作物、とくに広葉作物の茎葉に散布液が付着すると薬害を生じますので、かからないように注意して下さい。
- 降雨前の散布では薬液の流亡により効果が低下する恐れがありますので、散布の際は天候をみきわめてから散布して下さい。
- 麦類に使用した場合、軽微な葉枯れがあらわれることがありますが、その後の生育に影響はありません。
- たまねぎ(秋播き)に対しては、早春期広葉雑草が大きにならないうち(雑草の発生揃~4葉期)に雑草の茎葉全体に付着するように均一に散布して下さい。なお早春期であっても、異常に気温の高い場合には葉に小白斑点などの薬害を生ずる恐れがありますので散布は避けて下さい。
- たまねぎ(春播き)に対しては、夏期高温時の散布は薬害を生ずる恐れがありますので、6月上旬まで、またはたまねぎの倒伏始期以降の時期に散布して下さい。
- たまねぎ(直播き)に使用する場合は次の注意を守って下さい。
 - 雑草1~2葉期までに使用し、防除期間は短いので2~3週間隔で繰り返し散布して下さい。
 - たまねぎの子葉展葉期に使用すると、葉先枯れなどの薬害を生ずる恐れがありますので必ず1葉期以降に散布して下さい。
- 公園、庭園等に使用する場合、とくに以下のことに注意して下さい。
 - 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分に注意して散布して下さい。
 - 水源地、養魚池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意して下さい。
 - 激しい降雨の予想される場合は使用を避けて下さい。
- 蚕に対して影響がありますので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。

- 本剤は自動車等に散布液がかかると変色する恐れがありますので、散布液がかからないよう注意して下さい。

安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 原液は眼に対して強い刺激性がありますので散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。
- 原液は皮膚に対して刺激性がありますので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払って下さい。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管して下さい。
- 本剤は水産動物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼす恐れがありますので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきって下さい。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 危険物第4類第2石油類に属しますので、火気には十分注意して下さい。
- 火気を避け、直射日光が当たらないようなるべく低温場所に密栓して保管して下さい。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。● 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00、13:00~17:00
土・日・祝日を除く

(F-3016 17.08.ZN)